

問題に気づく力を育てる地域学習のあり方

——三原市における単元「わたしたちのまち」を例として——

村 上 典 章*

“The Ideal Regional Study Program to gain The Ability to identify Social Studies Problems
——Based on The Examples from “Our Hometown” in Mihara ——

Norifumi MURAKAMI

The purpose of this article is to establish a study plan, by understanding the importance in the ability to identify problems within Social Studies, and basing the methods to assist mastering the subject around the identified problem. The followings are the findings;

- (1) Clarified what Social Studies should be in relation to Life Environment Studies and Integrated Course.
- (2) By presenting “Our Hometown” in Mihara as an example, present a model study plan for a regional study.

In the future, I would like to further expand my study when we discuss Industry as a subject of regional study.

1. はじめに

問題の所在を明らかにするために、筆者が出会ったエレベーターに関する三つのエピソードを紹介しておこう。

A. 本学に着任早々、すぐに目に付いたのが本部棟エレベーター脇にある「学生は4階までは階段を利用してください」という張り紙であった。そこで、最初の講義の際、学生に本部棟だけにある理由を尋ねたが、誰も知らなかった。それどころか、「言われてみれば不思議だが、自分はそんなことを一度も考えたことがなかった。」という反応が多かった。

B. 4月、研修施設で新入生の宿泊研修を行った際、エレベーター脇に「生徒さんはエレベーターを使用しないでください」という張り紙があった。ちなみに、本学以外の利用者はいな

かった。ある時、研修の都合で階上へ多くの椅子を運ばなければならなくなった。椅子を両手に抱え、苦勞して階段を上ろうとしている学生に「エレベーターを使えば。」と言ったら、「使ってもいいんですか?」と驚いて聞き返された。

C. 11月、専修で教育実習後の報告会を行った。その際、ある実習校で、障害児の入学を機にエレベーターを設置したが、他の生徒は使っていないという報告がなされた。その点について誰からも質問が出なかったので、「では、その子が卒業したらエレベーターはどうするのですか。」と聞いてみた。その結果、多くの学生が判断に迷い、利用を許可する者と禁止する者とがほぼ同数に分かれた。

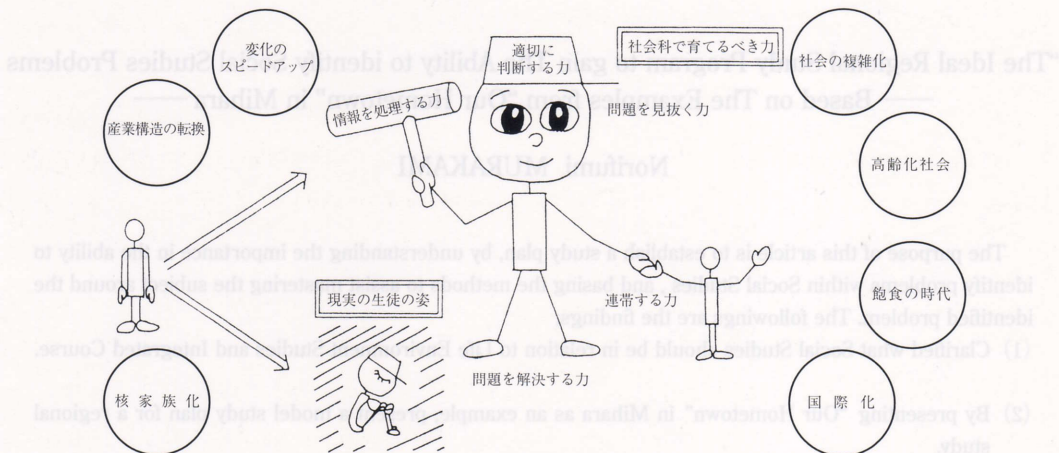
これらのことは、多くの学生に、社会科の目標である市民的資質（公民的資質）が不十分にしか形成されていないことを物語っている。すなわち、Aのケースでは、日常生活レベルで起こるできごとに関して「なぜ?」と問い、そこ

* 本学助教授

に潜む問題に気づく力、Bのケースでは、状況に合わせて柔軟に判断する力、Cのケースでは、

バリアフリーという人権保障の視点から結論を吟味する力が不足しているのである。

社会科で育てるべき力と生徒の姿



筆者は、かつて上のような図を使って、社会科で育てるべき力と現実の中学生の姿とが年々かけ離れていく現象について次のように説明したことがある（筆者；1988）。

「科学技術の進歩により、社会の変化がめまぐるしくしかも広範囲に影響を及ぼすようになったために、生徒をとりまく環境はさまざまな要素がからみあい、きわめて複雑な様相を呈している。」「その中で、真に『民主的・平和的な国家・社会』を形成しようとすれば、生徒は問題を見抜く力、氾濫する情報を処理する力、適切な判断を下す力、仲間と連帯する力、問題解決に向けて実践する力をこれまで以上に身につけることを要求されるのである。ところが、現実の生徒の姿を見てみると、全く逆の現象が起こっている。」すなわち「まわりを見るだけの余裕がない」とか「苦しみから逃れるために敢えて現実から目をそらす」などの理由から「人間的なつながりを欠いてバラバラに」なり、

「自分のことしか考えられない生徒が増えていく」。

以上は、筆者が10数年前に中学生について感じたことであったが、理由の面で多少の違いはあるにせよ、今や大学生ひいては社会全体に同様の現象が広がっているように思う。

とりわけ、解決の出発点となるという意味で「問題を見抜く力（本稿では、小学校中学年という発達段階や生活科との関連を考慮して「問題に気づく力」と表現する）」の不足は深刻な問題である。

そこで、本稿では、社会科における問題に気づく力の重要性と課題を明らかにし、その課題を克服するための手立てに基づいた授業構想を提案する。その際、筆者の居住地である三原市における「わたしたちのまち」という単元を例として取り上げる。それは、社会科の導入期にあたる小学校第3学年における地域学習でどのような学習を行うかが、その後の社会科学習に

とって極めて重要だと考えているからである。

以下、本稿の目的を達成するために、次の手順で考察を進めていく。

2. では、小学校学習指導要領について検討することにより、問題に気づく力を育てることの重要性和課題を明らかにする。

3. では、平成元（1989）年に小学校低学年に新設された生活科との関連から、導入期の社会科学学習で何を継続・発展させるべきかについて考察する。

4. では、平成10（1998）年に小学校第3学年以上に新設された総合的な学習の時間との関連について、三原市の小学校の実践について調査・分析し、課題を明らかにする。

5. 以上の考察に基づいて、問題に気づく力を育てる授業の構想を、三原市における単元「わたしたちのまち」を例として提案する。

2. 小学校学習指導要領における問題に気づく力の重要性和課題

紙幅の余裕がないため、小学校学習指導要領の変遷について整理することはできないが、初期社会科と現行の学習指導要領を比較・検討しながら考察を進めていく。

文部省が昭和22（1947）年に発行した「学習指導要領社会科編（I）（試案）」は、社会科の学習指導法について、次のように述べている。

「一方、社会科の目指している社会的態度とか、社会的能力とかいうもの、すなわち生活のしかたとしての民主主義は、日々の生活の実践によってのみ理解され、体得されるものであるから、青少年の生活の問題を的確にとらえて、その解決のための活動を指導して行くことが、社会科の学習指導法の眼目でなければならない。」

このことから、成立期の社会科は、授業の中で日常生活の問題に気づかせ、その解決のため

の活動を支援することによって、民主的な社会を形成するために必要な実践的な態度や能力を育成しようとしていることがわかる。

しかし、その後の学習指導要領は、昭和30年版以降、地理・歴史・政治・経済・社会などの知識内容を中心とした系統学習的な社会科へと大きく方向を変えていった。この転換の背景としては、ちょうどこの時期が高度経済成長期にあたり、子どもの生活が生産活動から切り離され、社会の問題についてそれほど深く考えなくても生活が根底から脅かされるということが少なくなったことが挙げられると考える。

そして、平成元（1989）年には、低学年社会科が廃止され、今日に至っている。

現行の「平成10年版学習指導要領社会科編」の目標と内容の特色は次のとおりである。

教科の目標では、「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て」の部分で小学校社会科の固有のねらいとなっている。また、改善の基本方針の中で「網羅的で知識偏重の学習ではなく、学び方や調べ方を身に付ける学習や体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視すること」を示している。

また、第3学年及び第4学年の目標と内容では、「地域社会の人々は願いを実現するために様々な工夫や努力、協力をしていること、その結果、人々の健康で安全な生活の維持と向上が図られていることを理解できるようにするとともに、地域社会の一員としての自覚を育てるようにする。」とか「地域の人々による生活の維持と向上のための工夫や努力によって地域社会の特色が生み出されていることを理解できるようにするとともに、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。」などが示されている。

しかし、「人々の工夫や努力を理解し、誇りと愛情を育てる」学習からは、現状を肯定する

傾向が強まり、改善すべき問題に気づく力が育ちにくい。また、学習方法の面でも、系統学習の基盤の上に問題解決的な学習を取り入れようとしている点は評価できるが、この場合の問題が社会認識に関わる部分にとどまり、市民的資質（公民的資質）の形成につながる問題となり得ていない点に課題があると考ええる。

近時の長引く不況の影響で子どもの生活が脅かされ始めた状況などを考慮すれば、児童とのつながりを重視した教材選択や問題提示の工夫をすることによって、当事者として社会の問題に関わり、主体的に解決しようとする態度を育てることが重要であると考ええる。

3. 生活科との関連から

平成元（1989）年に低学年社会科が廃止され生活科が新設されたことに伴い、第3学年が社会科の導入期となった。そこで、生活科との関連に留意しながらスムーズに社会科への導入を図ることは、その後の社会科の学習にとって極めて重要な意味を持つと考ええる。

溝上・小原（2000）は、生活科の授業構成の根拠となる学習論として、「問題発見学習」を提案している。その内容は、「具体的な活動や体験を通して客体（環境）としての人々や社会・自然、自分自身に働きかけることによって、問題を発見する。問題を発見すると、問題を解決するために必要な思考や判断を行う。児童はこのような主体と客体との相互作用の中での問題の発見と思考・判断というプロセスを繰り返す中で、自ら学習し成長していくと考えることができる。」というものである。

そして、発見する問題としては、「『認識の芽』を育てることにかかわる『疑問探求型の問題』（「なぜ、どうして）」と『社会性』を育てることにかかわる『欲求実現型の問題』（「どうした

らよいか、もっといい方法はないか）」の2つのものを考えている。

さらに、両氏は、それぞれの問題を解決するための学習を「知的な問題について思考する『問題志向的学習』と実践的な問題について判断する『目標志向的学習』と呼び、生活科の目標である「自立への基礎を養う」こととの関係を次のように説明している。

「『問題志向的学習』においては、身近な人々や社会・自然、自分自身に対して『なぜ、どうして』と問い、その原因や理由を考えることによって、学習の基礎を学ぶことができる。そのことが『認識の芽』の育成を可能にすると考えられることができる。また、『目標志向的学習』においては、『どうしたらよいか、もっとよい方法はないか』と問い、工夫を考えることによって、生活の仕方を学ぶことができる。そのことが『社会性』の育成を可能にすると考えられることができる。そして、このような2つの学習を繰り返すことによって、『自立への基礎』を養うことが可能になると考えることができる。」

以上のような特徴を持つ生活科との関連を考慮すれば、生活科の発展と社会科への導入という側面を有する小学校中学年の授業を設計するに当たって、次の点に留意する必要があると考える。

- 生活科における「疑問探求型の問題」に対する思考を発展させ、社会科の目標の「社会生活についての理解を図り」という部分につなげていく。
- 生活科における「欲求実現型の問題」に対する判断を継続させ、社会科の目標の「国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」という部分につなげていく。
- 学習活動に「具体的な活動や体験を通して学ぶ」場面を取り入れる。

4. 総合的な学習の時間との関連から

平成10（1998）年に小学校第3学年以上に総合的な学習の時間が創設され、平成14（2002）年度から完全実施された。

(1) 平成10年版学習指導要領総則編より

現行の指導要領によれば、総合的な学習の時間のねらいとしては、「(1)自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。

(2)学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。」が示されている。

また、学習方法や各学校の創意工夫を重視するという趣旨から学習内容についての細かい規定はない。ただ、学習活動に関して「例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題」、「児童の興味・関心に基づく課題」、「地域や学校の特色に応じた課題」などが示されているため、例示された内容で実践している学校が多いことが予想される。

さらに、各教科との関連について、「この時間の活動を通して、学校で学ぶ知識と生活との結び付き、知の総合化の視点を重視し、各教科等で得た知識や技能等が生活において生かされ総合的に働くようにすることが大切である。」、「また、総合的な学習の時間で身に付けた力を各教科等において生かしていくことが大切であり、各学校では、総合的な学習の時間と各教科等の指導計画の有機的な連携に配慮する必要がある。」と述べている。

(2) 実態調査

三原市の小学校で、社会科及び総合的な学習

の時間に地域に関する学習がどのように行われているかを知るために、平成14（2002）年11月に実態調査を行った。調査方法と内容は以下の通りである。

三原市内の小学校に調査用紙を送付し、次の2つの内容について記述を求めた。

①小学校第3学年及び第4学年社会科において、地域の学習を行う際に観察・調査などを実施している場合、その実施時期、学習活動の概要とその活動を通して学習させた内容

②総合的な学習の時間において、地域に関する学習を実施している場合、その実施時期、学習活動の概要とその活動を通して学習させたい内容

回答のあった9校の調査結果は、別表の通りである。（本文末に掲載）

この結果について、実施時期、学習内容、学習方法という視点から分析したところ、次のような課題が明らかになった。

○ 社会科の内容の順序に関して、ほとんどの小学校が教科書の配列のまま実施している。

現行の指導要領が第3学年と第4学年の目標と内容を2学年まとめて示し、内容の順序や教材の選定などの弾力的な展開を意図していることを考えれば、今後、各学校が実態に合わせて配列し直すことが重要であると考ええる。

○ 総合的な学習の時間に、社会科の内容である「地域の特色」、「ごみ」、「農業」などの学習を行っている学校がある。

学習内容を吟味して、全員に定着させる内容は社会科で扱うべきである。そして、そこで興味・関心が高まり、社会科で選択しなかった問題、教科の枠を越えそうな問題、発達段階からすると少し難しい問題などに発展した場合には総合的な学習の時間で扱うことを提案したい。

- 総合的な学習の時間の内容に「ふれあい」、「思いやりの気持ち」、「伝統のすばらしさ」など現状の肯定につながるものが多い。

総合的な学習の時間のねらいに、社会科のような「工夫や努力」、「理解と愛情」などの語句がないことを考慮すれば、社会を改善するという視点で取り組む学習を行ってもよいのではないだろうか。いくつかの小学校で「バリアフリー」、「護岸工事の必要性」などを取り上げた例も見られる。このような内容を増やすことにより、問題に気づく力が育つと考える。

- 社会科で観察・調査を実施していない学校がある。

前述したように、現行の学習指導要領は、総合的な学習の時間のみならず社会科でも「学び方や調べ方を身に付ける学習や体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視すること」を求めている。もし、総合的な学習の時間が創設されたことによって、社会科が受動的な座学に終始するならば、「社会科＝無味乾燥な暗記科目」として教科の存在意義に関わる批判を受けるであろうと推察される。

5. 単元「わたしたちのまち」の授業構想

(1) 授業改善の手立て

以上の考察から明らかになった中学年社会科における授業改善の手立てを次のようにまとめることができる。

- 学校の実態に合わせて、学習内容の順序や教材の選定などを弾力的に行う。
- 学習活動に「具体的な活動や体験を通して学ぶ」場面を取り入れる。
- 児童の「なぜ、どうして」という問いを取り上げ、社会生活についての理解につなげる。
- 児童の「どうしたらよいか、もっとよい方法はないか」という問いを促し、判断力・実

践力の育成を図る。

- 全員に定着させる内容は社会科で、発展的な問題は総合的な学習の時間で扱う。

(2) 「わたしたちのまち」の授業モデル

以上の手立てに基づけば、三原市における単元「わたしたちのまち」の学習について次のような授業モデルが考えられる。

A. 単元の構想

本単元の学習に関する基本的な構想は以下の通りである。

- 学習内容については、地形図に学校を中心とする300mごとの円を描き、円で囲まれた範囲ごとに整理する。そして、それを学校から遠ざかる方向で配列する。
- 学習活動については、保護者の協力を得てグループによるオリエンテーリングを行う。その後、グループごとに気づきを発表し、全体で確認するという順で行う。
- 知識・理解と思考力に関する内容については、気づきの中から「地域の特色」をとらえさせる。その上で、「もっと知りたいこと」については総合的な学習の時間や自由研究などに発展させる。

- 関心・態度と判断力・実践力に関する内容については、気づきの中から「どうすればよいか」を討議させた上で、「もっと考えてみたいこと」については総合的な学習の時間や第6学年の「地域の開発」などに発展させる。
- 技能に関する内容については、地図記号はオリエンテーリングの際、必要に応じて調べさせ、四方位はわかりやすく発表するために用いる。また、縮尺は、地図上の長さとそのまでの所用時間から経験的に感じ取らせる。

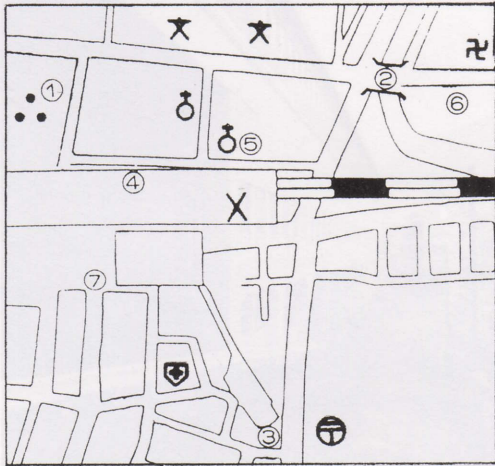
B. 学習指導過程

具体的な学習の流れについて、小単元「学校

のまわり」を例に、もう少し詳しく述べる。

ア. 下の地図をもとに、地形図と比較しながらオリエンテーリングを行う。(但し、児童が実際に使用する地図には、①～③の観察ポイントのみ示してある。)

イ. 3つの観察ポイントを巡りながら、答、気づきや途中で危険を感じた場所をメモする。



ここで、3つの観察ポイントの指示と気づきの内容について、簡潔に述べる。

観察ポイント①



観察ポイント①の指示 * () 内は答
「これ(三原城)は、(小早川隆景)が(1567)年に築きました。2つの島を利用してつくったので、別名を(浮城)と呼ばれています。まわりのようすもよく観察してみましょう。」

三原城は、1893年、日清戦争に備えて山陽鉄道(当時)を建設するために、城郭のほとんどを壊され、本丸跡に駅が造られた。その後、三原市では、開発優先の施策によって多くの文化財が壊されたが、城跡はその象徴とも言える姿である。

観察ポイント②



観察ポイント②の指示 * () 内は答
「ここ(大橋)に立って(湧原)川の両側を比べ、違うところを絵や文章で書いてみましょう。」

館町側の「はね」と呼ばれる突起物には、流木を東町側の堤防へぶつけ、低地に住む町人を犠牲にして城や武家屋敷を守る目的があった。

観察ポイント③



観察ポイント③の指示 * () 内は答
「この人(トマス小崎)は、(豊臣秀吉)の
命令で、長崎西坂の丘で処刑された「日本
26聖人」の一人で、当時(14)歳でした。
死後、着物のえりの中から(三原城)で
書き残した母への手紙が発見されました。
なぜ、殺されたのか考えてみましょう。」

このブロンズ像は、市内のカトリック信者らの呼びかけた殉教碑建立募金によって1993年に建てられた。そして、母への手紙を書いたとされる1月には、毎年巡礼が行われている。また、東町松寿寺の裏庭には、隠れキリシタンが信仰に使ったと言われる石灯籠がある。それは、全体が十字形をしており、裏面には、判別できないが、イエスかマリアとされるレリーフがある。

次に、危険を感じる場所として想定しているのは以下の4箇所である。

危険な場所④



コンクリート片が落下した新幹線高架下登校路
危険な場所⑤



車の出入りの激しい公共職業安定所前

危険な場所⑥



旧山陽道の町並み、室町時代の柱の残る酒蔵などを壊し、4 mから16mへ拡幅する工事

危険な場所⑦



5億8千万円で建設したが、雨の日の転倒事故が相次ぎ、改修工事を繰り返す駅前板張り歩道

ウ、気づきを発表し、意見交流をする中で、「城下町の特徴」を理解し、発展課題を見つける。以上が、授業モデルの概略である。

本稿で、筆者は次のことを明らかにした。

- (1) 社会の急速な変化などに伴い、主体的に問題を解決するという公民的資質が不十分にしか形成されていない実態がある。
 - (2) 上記の課題克服のために、小学校中学年の社会科において、生活科の特色である「活動を通して問題に気づく学習」を継続・発展させることが重要である。
 - (3) 社会科と総合的な学習の時間における地域学習は学習内容によって区分され、後者が前者の発展として位置づけられることが望ましい。
 - (4) 三原市の小学校の実践における課題を克服するための授業構想を「わたしたちのまち」を例として提案した。
- 今後、さらに、地域の産業学習へと研究を発展させていきたい。

引用・参考文献

- 拙稿 (1988) 「その子らしい見方・考え方を大切にし、生かす社会科の学習指導」『研究紀要 第25集』広島大学附属三原中学校教育研究会 pp.37-48
- 文部省 (1947) 「学習指導要領社会科編 (I) (試案)」については星村平和編 (1995) 『社会科授業の理論と展開』現代教育社による
- 文部省 (1999) 『小学校学習指導要領解説社会編』日本文教出版
- 溝上泰、小原友行共編著 (2000) 『生活科教育改訂版—21世紀のための教育創造—』学術図書出版社
- 文部省 (1999) 『小学校学習指導要領解説総則編』東京書籍

別表 社会科及び総合的な学習の時間における地域学習に関する三原市の小学校の実践状況

学校	第3・4学年社会科における地域の観察・調査活動			総合的な学習の時間における地域に関する学習		
	時期	学習活動の概要	活動を通して学ばせる内容	時期	学習活動の概要	活動を通して学ばせる内容
A小	4学年 1学期	「くらしとごみ」 ・清掃工場の見学 「水のめぐみを大切に」 ・浄水場、浄化センターの見学	・家庭・学校・事業所から出たごみの処理の仕方を理解する。 ・ごみ収集の仕事についての工夫や苦労に気づく。 ・クリーンセンターにおけるごみ処理の方法を理解する。 ・飲料水がいろいろな施設や人々の働きによって供給されていることを理解する。 ・自分たちが使った水が処理される仕組みを理解し、苦労や努力に気づく。	4学年	「発信しようわがふるさとA町」 ・A町の昔について家庭・地域で聞き取り調査をする。 ・「歴史と観光の会」の方に案内してもらい、説明を聞く。 ・テレビ番組を制作して調べたことをたくさんの人に知ってもらう。	・地域にある史跡や伝統文化について関心をもって調べることができる。 ・課題解決のために、調べたことを更に深く追求し、まとめていくことができる。 ・自分で調べ、体験し、発信することにより、郷土に親しみをもち大切にしていこうとする気持ちをもつことができる。
	3学年 1学期	「市内めぐりをしよう」 ・図書館見学 ・図書館周囲の公共施設の確認	・見学を通して ・メモの取り方 ・インタビューの仕方 ・まとめ方 など	3学年 1学期	「地域の地名の由来調べ」 ・各 地 区 で イン タ ビ ュー し、わかったことをまとめて発表する。 「地域の特色調べ」 ・わけぎ作り ・みかん作り ・鉢ヶ峰の由来などについて名人やお寺の方にインタビューし、わかったことをパソコンでまとめて発表する。 「地域のお祭り調べ」	・インタビューができる人を探す力 ・インタビューできる力 ・メモを取る力 ・まとめる力 ・発表する力 ・課題を見つける力 ・協力する力 など
B小	2学期	「店ではたらく人びとのしごと」 ・大型スーパーの見学	＊各グループごとに調べる内容、方法を考え、グループで行動する。	2学期		
	3学期 (予定)	「人びとのくらしと道具」 ・各家庭で昔の道具などを調べる。		3学期		
	4学年 1学期	「健康なくらしをささえる」 ・清掃工場、浄水場の見学 「安全なくらしを守る」 ・消防署の見学	・ごみ処理や飲料水の確保についての対策や事業が計画的に進められ、健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにする。 ・地域の関係諸機関や住民の連携、安全なくらしを守っている人々の工夫や努力に気づかせる。	4学年 1学期	「B町のくらし」 ・町内のごみすて場の場所や個数を調べ、特徴を調べる。 ・町内にある石碑を通して昔の災害について知る。 ・町の特産物を調べ、B町新聞を作成する。	・B町の中で、私たちの生活を支えているものを地域の人と関わりながら探す。 ・まとめのしかたを学習し、新しい課題を見つける。
	2学期	「地図に親しもう」 ・三原市の地図を用いて学習する。	・地域の地図を用い、地図に関心をもたせ、読図の基礎を身につけさせる。	4学年 1学期		
C小	1学期	「校区めぐり」 ・学校のまわり、コミュニティセンター、排水機場や廃校になった小学校跡の見学	・地域に興味をもたせるとともに地域について知る。 ・地域にあるいろいろな施設の役割を知り、活用していくようにする。	6学年 1学期	「地域の農業」について ・作物の種類 ・畑の広さ ・歴史 ・農作物を育てる人の願いや苦労 「地域の交通施設」について ・危険な場所 ・どんな交通施設があるか。	・インタビューする力 ・聞いたことをまとめる力 ・質問項目を考える力 ・個人の課題をグループでまとめる力 ・わかりやすく発表する力 ・地域の人の願いや要求に気づく。
	2学期	・用水路、ライスセンター、浄化場の見学	・用水路に水が取り入れられた経過を学習する。 ・ライスセンターの仕事の様子を見る。 ・浄化場と自分たちの生活との関わりについて知る。	4学年 1学期 と夏休み	「沼田川ハクセンシオマネキの観察」 ・事前学習としてインターネット等での調べ学習 ・ハクセンシオマネキの引越を全員で行う。 ・事後学習としてさらにくわしく調べ、まとめをする。	・地域の自然環境に関心をもつこと ・生き物に関心をもつこと ＊本年度は建設局から話があり、沼田川の護岸工事によりハクセンシオマネキの生息場所が失われるため、「カニを救うために」子どもたちの力で引越を行った。

村上：問題に気づく力を育てる地域学習のあり方

別表 社会科及び総合的な学習の時間における地域学習に関する三原市の小学校の実践状況（続）

D小	3 学年 1 学期	・ 地域の様子を地図記号を使ってあらわす。 「市内めぐりをしよう」 ・ 図書館、歴史民俗資料館、消防署、市役所の見学	・ 地図記号を活用したり、色の塗り方を工夫して校区地図を完成させ、校区の特徴をつかませる。 ・ 公共施設の地図を通して、その施設がどのような場所にあり、どんな働きをしているのかをつかませる。	3 学年 1 学期	「校区たんけんをしよう」	・ 校区の様子を歩いて調べ、白地図に書き込み、校区の特徴をつかませる。 ・ お年寄りと一緒に水でつぼを作り、思いやりの気持ちで接することができる。
	2 学期	スーパーマーケットの見学をしよう	・ 店の人の働きや店の工夫などに気づかせる。	2 学期	「白寿会の方々との交流」 ・ 竹を使った水でつぼ	・ 地域にある老人ホームへ慰問することで、思いやりの気持ちで接することができる。
	3 学期	「D町の今昔を調べよう」 ・ 昔の道具 ・ 昔から伝わる行事	・ お年寄りに子供の頃のくらしについて聞き、知恵や工夫に気づかせる。 ・ 人々が協力して受け継いできた行事であることを知り、祭りに込められた願いについて考えさせる。	3 学期	「校区たんけんをしよう」 「昔の道具や伝統行事について」	・ 1 学期と同様 ・ 実際に体験することで、昔からの伝統のすばらしさを感じ取ることができる。
	4 学年 1 学期	「ごみの処理と活用」 ・ 地域のごみステーションを探す。	・ 環境を守ることやごみの量を減らすことと関連づけて、リサイクル運動が必要なわけについて考えさせる。	4 学年 1 学期	「D町の七不思議を見つけに行こう」 ・ グループに分かれて調べる。	・ 地域の特徴あるものに目を向けさせる。 ・ 友だちと関わりを持って調べる力をつける。
E小	2 学期	「命とくらしをささえる水」 ・ 浄水場の見学	・ 水の使用量、水道の蛇口から水源地までの経路、浄水場の働きなどについてまとめ、発表する力をつける。	2 学期	「月曜会の人（地域の人）とクリーン作戦をしよう」 ・ クリーン作戦をしよう。 ・ 感想を書こう。	・ してきたことを自分たちの方法で発表する力をつける。 ・ 地域の方とかがわって、地域のごみを集める。コミュニケーション能力をつける。 ・ 自分の思いを文章に書き表す力をつける。
		「なくそうこわい火事」 ・ 消防署の見学 「事故に気をつけよう」 ・ 警察署の見学	・ 消防署で働く人々の工夫や努力、消火のための連絡と協力の仕組みについて理解する。 ・ 110番のしくみや、事故や事件から町の人々を守るために、警察署の人がしている仕事とその工夫や努力について理解する。		3 学期	「D町のバリアフリーを考えよう」 ・ バリアフリーとはどんなことか。 ・ D町にはあるか。 ・ 自分たちにできることはないか。
	3 学年 1 学期	「校区探検」 「三原市の主な公共施設の場所と働き」 ・ 図書館の見学	・ 校区について詳しく調べてみたいという意欲をもつことができる。 ・ 気づいたことや疑問に思ったことを見学カードにまとめることができる。 ・ 地域にある施設が人々のくらしを豊かにすることに役立っていることを理解することができる。	3 学年 1 学期	学区内の様子や施設を調べる。	・ 学区内の様子を大まかにとらえ、コミュニティセンターを地域の人がどのように利用しているか知り、体験する。 ・ グループで調べたい所へ連絡を取ったりお札の手紙を出したりする。
	2 学期	「工場見学」 ・ 原料から製品になるまでの作業について調べ、仕事の様子や工夫を知る。 「農家の仕事について」 ・ 調査学習 ・ ゲストティーチャーによる学習	・ ものができるまでの工程を理解する。 ・ 工場でのものづくりの工夫をとらえることができる。 ・ みかん農家の苦労や工夫について考えられる。 ・ 自然条件に合わせたみかん作りから販売までの様子を理解することができる。	2 学期	学区内にあるいろいろな会社や寺、農家などを調べ、E町の特徴をつかむ。	・ 調べたことをまとめ、わかりやすく発表する。 ・ 学区のよさを見つける。
F小	3 学年 1 学期	「町内探検」 「マップ作り」	・ 自分たちが住んでいる地域について調べ、分かったこと、気づいたことをまとめる。	全学年 9 月	障害者施設との交流（運動会で）	・ ふれあいを通して、生き方に学ぶ。
	4 学年 1 学期	「ごみ処理」	・ ごみ処理と生活や産業との関わり ・ ごみの減量、リサイクルに進んで取り組む意欲を高める。	1～3 学年 12 月	老人施設との交流	・ おじいさん、おばあさんと楽しくふれあうことができる。
				4～6 学年 1 月	老人施設との交流	・ 相手のことを考えたふれあいをし、福祉の心を育てる。

別表 社会科及び総合的な学習の時間における地域学習に関する三原市の小学校の実践状況（続）

G小				3 学年	「知ろう G 町の施設」 ・コミュニティセンター、ドック、郷土 G 町今昔物語	・地域の自然や社会、人々に自ら働きかけ、自分たちのくらしを見つめ、よりよく生活しようとする態度を育てる。
				4 学年	「調べよう G 町の環境」 ・ G 町の環境調査隊、レツリサイクル	・自らの課題を追求し、学んだことや気づいたことを表現することによって、自分を見つめる力を育てる。
				5 学年	「考えよう高齢者の方と」 ・わが町ふるさと G 町について紹介しよう（福祉）	・地域のすばらしさや人々の生き方に気づき、かわり合いをとらえる中で、自分たちのくらしを見つめ直し、よりよい生き方をしようとする態度を育てる。
				6 学年	「学ぼう G 町の歴史・文化」 ・ G 町の歴史・文化 ・人物 *ゲストティーチャーになれる人材リストを作成している。	・地域の自然や社会、人々に主体的に働きかけ、多面的な見方・考え方で自らの課題を追求し、学びを表現することによって自分の生き方を考える力を育てる。
H小				4 学年 1 学期	調べよう！「沼田川の水の汚れ」	○自分たちの身近にある沼田川に住む生き物に関心をもつ。 ・水に住む生き物について調べる。 ・生き物探しをする。
				2 学期	調べよう！「沼田川の水の力」	○なぜ護岸工事が必要なのか課題をもつ。 ・護岸工事の様子を見る。 ・流れる水には堤防を壊す力があるのかどうか調べる。 ・沼田川の水害の歴史について調べる。
				3 学期	知らせよう！「しじみや魚の住む沼田川」	○1, 2 学期の活動を振り返り、活動してわかったことをまとめ、発表する。
I小	3 学年 1 学期	「校区たんけん」 「市内めぐり」 ・図書館、歴史民俗資料館の見学	・校区の地形、ようす、公共施設などを調べる。 ・校区地図を調べる。 ・観察、聞き取り調査をし、新聞にまとめる。 ・絵地図、絵記号 ・地域の農業について、聞き取り・体験活動をし、まとめる。 ・農家の苦勞・工夫を知る	3～6 学年 1 学期	・米作り調べ ・塩水選・芽出し ・もみまき・ビニルハウス作り ・苗の見学	・年間の見通しと意欲づけ ・ゲストティーチャーの家へ行き、苗作りのようすを見学し、苗作り・米作りの苦勞を知る。
	2 学期	・ぶどう園の見学 ・乳業の見学	・生産と自分たちのくらしについて知る。 ・働く人の努力や工夫を知り、新聞にまとめる。 ・買い物調べ、店の見学、アンケートなどでくらしのつながりをまとめる。 ・古くから残るくらしの道具、生活について知る。 ・人々の生活の知恵、願いから学ぶ。	2 学期	・田植え ・除草	・田植えの経験をする。 ・除草機を使い、除草の大変さを体験する。
	3 学期	・スーパーの見学 「地域の人々のくらしと道具」 ・行事		3 学期	・稲刈り ・稲こぎ ・発表（米作り） ・もちつき	・稲刈りをかまを使って体験する。 ・米作り発表をするために、今までの学習をまとめる。
	4 学年 1 学期	・浄水場と浄化センターの見学 ・消防署・警察署の見学	・水をどのようにして飲み水にしているか、また、汚水をどのようにしてきれいにしているか仕組みや工夫を学習する。 ・くらしを守る消防署や警察署の仕事やそこで働く人の苦勞や工夫を学習する。			